

「Lines of Sight ～それぞれのアジアへの視線～」

● PFWトップページ ● NPIトップページ

Title: 「翔けゆくアジア！！」



Lines of sight

～それぞれのアジアへの視線～



荒金 聡

ついに、この日が来た！海外フィールドワークは、自分にとっての登竜門であり、試金石であると思っている。この海外FWで自信をつけ、どこにでも臆することなく、取材に向かう。そんな自分になるため、今日もアジアの風を翔け抜ける！

## ● 最近のエントリー

- ☑ Overseas Field Work , Mar.-Sep. 2006, Vol.2 (2006.09.12)
- ☑ Overseas Field Work , Mar.-Sep. 2006, Vol.1 (2006.09.11)
- ☑ Near - come back to JAPAN , Sep 2006 (2006.09.09)
- ☑ Return CHINA - 寧夏回族自治区を目指してラスト勝負！ Sep. 2006 (2006.09.05)

## ● アーカイブ

- ☑ 2007年07月
- ☑ 2007年01月
- ☑ 2006年12月
- ☑ 2006年11月
- ☑ 2006年10月
- ☑ 2006年09月
- ☑ 2006年08月
- ☑ 2006年07月
- ☑ 2006年06月
- ☑ 2006年05月
- ☑ 2006年04月
- ☑ 2006年03月

## ● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校  
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

OLYMPUS

翔けゆくアジア！！ &gt; 2006年09月 アーカイブ

06.09.12

## Overseas Field Work , Mar.-Sep. 2006, Vol.2



(中国・長角ミャオ族の里：貴陽 → 六枝 → スオガー → ここ の移動が必要ですよ！)

今日こそは、突然消えてしまいました、なんていうミスのないよう、アップしていこうと決意して、始めます！ 今日が最後のアップになるかもしれませんので、テンションを大事に！とのことです。

今日は、2ヶ月ぶりに髪を切り、少しテンション高めです！ 理髪店探すのに40分くらいかかりました。青、赤、白のパーパーですよ回転看板のお店に入ったら、なぜかスリッパ履き替えて、ベッドが並ぶお店に間違っって入ってしまった、ミスはありましたが、無事に散髪任務完了です！

この半年で散髪は、4回しました。私の髪の性質からして、ほんとくと、マ・ト博士のようになりますので、バンコク・バンガロール・成都・釜山でしたのであります。バンコクが一番思い出深いですね。どこかの駅にあったQBハウスでしたのです。日本でお世話になっているパーパー屋さんが、こんなところにもあるなんて、しかもカプセルのような中でしたのだから感激です。ちょっとあっち系のお兄さんがとても丁寧にカットしてくれました^^





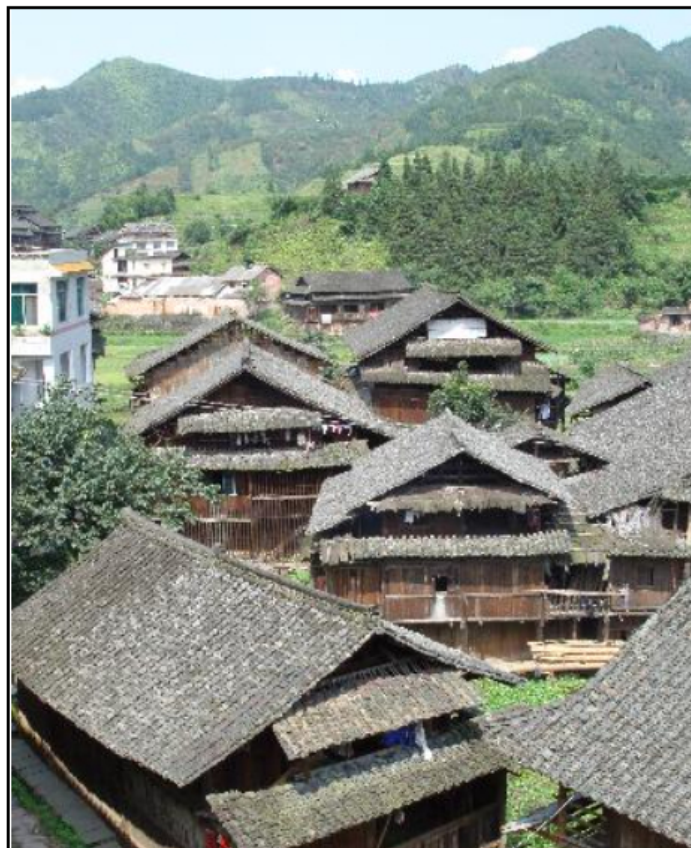
(最初の写真と同じ場所です)

さて、中国取材の総括ですが、早く今後の抱負などを話したいと思いますので、手短かにしていきたいと思います（なるのかなホント！）。

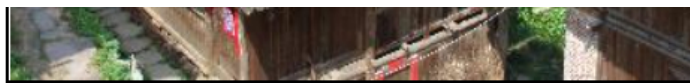
決められた日数の中で、中国の大都市を拠点に少数民族の田舎まちなも目指すというのは、けっこうなハードスケジュールでありました。しかし、今回の私の中国取材にかける意気込みを考えると、それは不可能なことではなく、また、やらねばならぬ！ というものでありました。上海での十分な取材期間を確保するためにも、とにかく移動を緻密に、無駄なくというのが目標。当然、移動はすべて火車であります。時に硬座の切符が手に入らないのは通り越して、立ち切符さえ手に入らない状況もありました。パワフル女性サービス員に「没有！ 没有！」を連発されても、ひるまずカウンターにすがりついて、何とか切符をゲット！ という苦勞もなければなりませんでした。

立ちで乗ったはいいが、トイレ前の一角で長時間耐えることも必要！ つらい！（子どもが目の前でやっちゃったものをかわしながら^^） 垂直にそそり立つ硬座13時間、通路側にて真夜中でも物売りワゴンが頻りに往来、せっかく眠りかけても、人がぶつかって来る、寝させてくれー！ の苦勞も必要！

山場は広西壮族自治区・トン族の程陽風雨橋で有名な三江あたりであったと思います。夜中、3時ごろに乗る火車しかない。しかも、駅構内に明かりはなく、真暗、懐中電灯を取り出して、30分前にやっと勤務に訪れた駅員から無座席切符を購入！ なんておもしろい状況、ハードなものです。







(中国・三江トン族自治県：ここの村にある風雨橋は釘を一本も使わずに建てているという、世界文化遺産ではないが、とても重要な文化財を保持しています。求めに応じ、私も何十元か寄付を！)

ということで、いきなり、中国はフリープランを含めて90点をつけさせていただけます。極端な無理をすることなく、大都市や田舎にて、富や貧困と思われる状況取材していただきました。大都市と田舎という双方の側面を見つめることができたのは、今の中国を理解する上で、とても大事なことであったと思います。もちろん、中国の政治的なものへの考えも、いろいろ思いめぐらすことが出来ました。

さて、海外FW全体の総括はというと、取材、そしてその他の面を含めて、失敗や反省点も多々ありまして、とても勉強させていただきました。自分にとって、年齢的にも後がない状況にて、思い切って写真の道にかけてみたいという思いは、この今回の海外FWを実施しないことには、今後の身の振り方に決定打を出せないわけでありました。写真の道で頑張っていきたいという強い思いも昨年、一時ゆらぐという不甲斐なさを通り越し、再び強い信念となって、帰国出来るであろうという思いで、半年前に大阪港を出発したのであります。

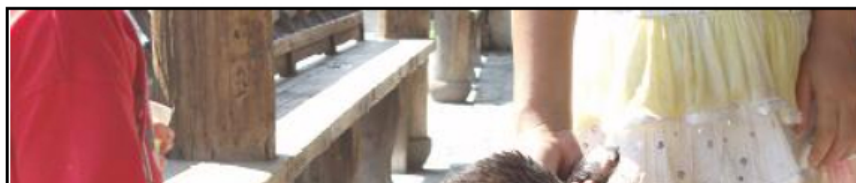


(再び登場させていただきます、上の写真と同じ場所です！)

帰国を目前にして今は、次のOverseas Field Workを考えています。もちろん、今度からはすべて一人での勝負です！ インド・中国などでは、頭にくることが一杯です。しかし、だからこそ、このような国には、多様性があり、とても魅力的であると結論付けています。

帰国してしばらくは、これまで撮ってきた写真を作品として、価値あるものに仕上げなければいけません。その作業はとても楽しいものです。それと同時に、卒業後の自分の居場所を確保しなければならず、しっかりとした未来の礎となる職場を懸命に探そうと考えています。これが最も難しいことは、百も承知ですが！

次のOverseas Field Workのことも同時に考えていきます。もちろん、まったく触れたことのない語学を勉強することから、始めていきましょう！ もちろん、英語力ももっともっとアップしなければなりません。楽しみです！ 目標はでかく、インターナショナルでなければつまらないと、身の丈知らずなことを常々考えております。ミスターな歳となった私にとって、焦りがあるものの、焦ってもどうにもならないことは、知っております。一日一日を無駄にすることなく、これまで以上の気合・根性と計画性を発揮していきたいと考えております。





(中国・南米、\*はさんずいに暮、上海近郊の歴史ある水郷の街です：これまた、再登場！)

長らく応援して下さった、皆様、本当にありがとうございました。今まで、ご心配やご支援を  
していただき、とても感謝しております。これからも謙虚な気持ちでシャッターを切っていき  
たいと、強く誓って最後の言葉とさせていただきます！ ^ ^

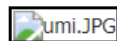
カテゴリ：

post by 荒金 聡 | 日時: 2006.09.12 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

翔けゆくアジア！！ > 2006年09月 アーカイブ

06.09.11

## Overseas Field Work , Mar.-Sep. 2006, Vol.1



(半年前はこの海からスタートしたのです！ 石垣～台湾・高雄)

はい、釜山にいること2日目であります！ さきほどかなり遅い昼食（今日最初の食事）を  
食べましたが、韓国も中国に全く負けることなく、食事メニューで私たちを驚かせてくれま  
す。



(ビビンバ4500ウォン（日本円換算は、だいたい0をひとつ落として下さい）を注文した  
だけですが、こんな具合です。とってもヘルシーキムチ韓国のリスープビビンバ定食となって  
登場です！ 感謝感激！)

昨日の続き、しかし今日は少しテンション高めで、総括を始めます。メインであるインド・  
中国のテーマは、あまりこの公式ブログでは、触れることに躊躇するのですが、少し述べま  
す。簡単に申せば、「富と貧困」です。皆さんもこの両国が、現在大きな貧富の差を抱えてい  
ることは、ご存知であると思われます。





(台湾・台北：ネットにて多くの若者がゲームに熱中している姿に、一瞬、たじろいでしまいました！！)

今回、学校授業の一環として、この未知の両大国を訪れる機会を得た私が、この両国を海外FWのメインに、そしてこのテーマにて比較的に見ていくことは出来やしないか、との考えに至るまでそんなに時間は要さなかったのです。

長い長い歴史的背景から由来する「富と貧困」、新しい市場原理の導入などによって、その大きな潮流に乗れる、乗れないという「富と貧困」。背景は違えども、両国にとっては、今が時代の転換期であると考えた私は、このテーマ設定のもと、しっかりと取材していくことを認識・決意したのであります。



(ベトナム・フエ：しずおか（日本語学校の、あるクラス）に通っているという、アオザイを着た服飾店の受付さん！ アオザイ好きな私が、このポーズをコーディネートしたんですよ！本人は恥ずかしそうでしたが！)

6月1日にインド・チェンナイに降り立った私たちは、かつて経験したことの無い高温・



インドには、インド・フェスティバルで舞う花火の飾り、そして熱帯のこぼれぬ高温をすぐに実感しました。1年で一番暑いと言われるインドを、およそ3週間あまり、一人で移動・取材していったことはとても大きな自信となりました。なかなかの重さの機材バックパックを、いつも背中に抱えての昼中取材というのは、さすがこのインドでは、体温がヒートアップしていきます。何度か、クールダウンするためにマックやカフェなどに駆け込んだことが思い出深いですね。それと、大きな病気はありませんでしたが、下痢が10日ほども続いたことは、生まれて初めてのことであり、取材に影響を及ぼせなかったものの、ときおり時間との勝負であたふたでありました！ (@\_@)



(カンボジア・シェムリアップ：夜、みんなで日本料理屋にて食事した帰り、長らくお世話になってきた 引率の五十嵐先生は、この時おちゃめな格好にされていました！ (^ ^ )

インドにて、貧困の場面に出くわすことは、とても機会の多いことですが、あらためて自分の決めた現場に赴くこと、そしてそこでシャッターを押すことは、体力と精神力の求められることだと思いました。人ごみの中で、そして保安の面で緊張を強いられる場面で、カメラを持ち、シャッターを切っていくことに慣れていたとはいえ、やはり疲れるものです。しかし、こちらが堂々と、そして笑みをもち合わせていれば、怖いことなどは、実際はあまりないのです。それ以上に、小さな子どもたちがいっぱい集まってきて「one photo! one photo!」の嵐の方がコワイ！ とても体力を使います！ そして、楽しくていいのですが、自分が撮りたい瞬間その他が掻き乱されるのであります！ 子どもたちは意識して、画角の中に入り、自分を映像に残そうと必死です！ 逆になんだか感心しちゃいます！



(カンボジア・孤児院KADOLにて、写真展開催に向け、頑張っていたミスター荒金、私です！ 子どもが撮影)

ということだ。インドでは自己採点8.5点を中国当時つけました。終盤、大きな判断ミスを

というところで、インドでは自己採集の点を山崎が時分りました。結果、ハロワがアホメをしたこと、中産階層の動きをどれだけ捉えられたのかがマイナス要因である。インドのテストプリントを未だ出来ず、確認が取れていない状況で、今は何とも断定しがたいが、あの時期のインドで良く頑張ったと思っています。

私がいたムンバイにて、約1ヵ月後、同時多発テロが起きました。自分が被害に会わなかったことを改めて、神様・仏様に感謝するとともに、不運にも被害に会われた200名ほどの方々のご冥福をお祈りしたいと思います。



(再び登場！ 夜の車道にたたずむバンコク犬です！ 私のブログには犬・子どもが多く登場しています！)



(ムンバイ・ガンディー博物館：非暴力不服従を買いた、彼にもこんな時期があったのですね(当然ですが！) アカデミー賞を何部門か取った80年代の映画 『ガンディー』 は感動します。ぜひ、見てください！)

さて、お次は超大国中国です。総括を手短かにして、今後の抱負に早く移りたいとこですが、行く手には、万里の長城が立ちふさがっており、乗り越えられませんので、我慢して嘉峪関まで早馬を！

はい、悠久の歴史・遙かなる大地を持つ中国に今回、訪れることが出来、とても嬉しい限りであったのですが、世界遺産を巡るツアー旅行ではありませんので、ここは渋く、マーボー辛くお伝えしなければと思っています、ハイ。

中国は、とにかくとても広うございます。最初にネパール・カトマンズからチベット・ラサに降り立った時は、感動もひとしおと、行きたいところでしたが、さっそく高山病の初期症状

にうなされました。初期とは

、言ってもとても辛かったです。とりあえず、人民元を手にしないことには、何にも出来ないということで、中国銀行までの徒歩の道がとても辛い！ 頭・腰に手を当てながらのゆっくり歩き。ホテルに戻っても、倦怠感・吐き気・下半身の血が逆流しているような、いやな感じが翌日昼過ぎまで続いた。いきなり、富士山頂上に降り立ったのだから、仕方がないと自分を慰めつつ、なぜか昼過ぎころから、奇跡的に体力が回復！ さっそくマーボー豆腐を食べ、取材が始まった！



(これまた再登場のネパール親子！？ ネパールの人はとても仕事熱心でした。)

ここから、中国の火車移動苦難記を多く載せるも、なぜ！ なぜ！ の連発！ また全て海の藻屑と消えてしまいました。（\*\_\*）理由がわかりません！ 今日急病にて店じまいとさせていただきます。ゴメン！

カテゴリ:

post by 荒金 聡 | 日時: 2006.09.11 | [パーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

[翔けゆくアジア！！](#) > 2006年09月 アーカイブ

06.09.09

**Near - come back to JAPAN , Sep 2006**



(前回、解説した戦国秦長城：ここでは寒くて、鼻水が出た出た！ カメラも動かなかっ



た！)

いろいろと最初に書いておりましたが、突然なぜか画面が消え、かなりテンション下がりが気味でスタートせざるを得ません(＊＋＊)泣き泣き！！ ご了承のほどを！ 繰り返し同じことを書くのも＊＊なので、すこし飛んじゃいます。ゴメンなさい！ 今日、やっと釜山に到着しました。久々に日本語が打て、USBが使えるPCクラブで今、書いています。この店員お兄ちゃんはサービスでアイスコーヒーを持ってきてくれた！こんなこと、この半年間で初めてですわ！ 泣き泣き！！

日本への帰国も近いので、そろそろこの半年間の総括・そして今後の抱負を述べなければ、と思っております。いろんな写真を無作為的に載せながら、やっていきたいと思ひます、よろしくです！



(無事に取材任務を終え、固原から西安へ：数々の苦痛があったバス大移動だが、oh、オアシス！)

まず、このブログの短い自己紹介文の中で、私にとっての今回の海外FWは、登竜門・試金石であると述べました。旅を振り返れば、確かにずばりその通りだったと思います。

最初に登竜門を感じたのは、体力的・精神的な辛さを若干感じた、ヴェトナム・ハノイでした。猛暑の中、バイク洪水の中、汗だくになって、ハノイ旧市街でボジのフィルム交換を繰り返していたことが記憶にあります。

タイでは、「まだ続いているのか？、児童労働！」というテーマのもと、見つけられるのかどうか、わからない状態で、その現場を目指して東奔西走(ちょっと大げさ！)しました。



(西安の夜、どういふ親子なのだろう？)

周りの状況に流されないようにしよう！ 被写体をとにかく見つけよう！ という私の意気込みは、慣れない土地にあって、冷静さを若干欠いた作品となって、出てきてしまいました。ヴェトナムでのボジ露出ミスが多さ(2年次のフランス研修でボジ露出ミスがほとんどなく、

自信を持ちすぎていたのが裏目に出てしまった!)と、タイでの撮り方が単調という結果。

(被写体を見つけ、撮影(モノクロ)にいたることに必死!)

しかし、これらの失敗を、鈴木先生のご指導の下、前期マレーシア・スクーリングにて確認出来たことは、とても大きな成果でした。勝手な言い分かもしれませんが、今になって思えば、この時のミスのおかげで、私の本格テーマであるインド・中国に慎重さと気合をもたらしたと言えるかもしれません。



(西安一夜の灯火にあそぶ子ども)

ここに書いた記事が、また消えてしまった! すみません、今日はもう立ち直れません! 泣き!

最後にもう一枚写真を載せ、また明日出直します!!!



(夜の西安駅: 中国の火車移動はとても大変なのです! 切符も手にすること難しい! 私も夜中の硬座13時間や無座席の立ちなどを何度か経験し、その辛さに同情しております。中国人がんばれ!)

カテゴリ:

post by 善念 終了日時: 2005-09-09 11:00 AM カテゴリー: コメント (0) | トラックバック (0)



06.09.05

## Return CHINA - 寧夏回族自治区を目指してラスト勝負！ Sep. 2006

ご無沙汰いたしております、荒金です。今日、固原から西安に着きました！

私のブログに文字が戻ってきました。しかも、変てこな英語バージョンではありません。日本語を書けることの喜びを、より一層噛み締めて今打っております！！確か、インドのチェンナイより写真のみのブログになったと思います。「なーんだ、この人いつも写真だけでおもしろないわ！」と思われることも覚悟の上で結果的にここまで来てしまいました。いまさら、何の弁解もありません。期待をされていた方には、申し訳ないの一言であります。ただ一言、言わせてもらえば、いろいろと理由がありました！、ということです。

さて、私のフリー取材は、もちろん中国です。先生方には申し訳ありませんが、私のフリープランは中国の寧夏回族自治区ということに、出発前から決めて準備をしており、あとは後期スクーリングでの鈴木先生によるご指導待ち！ということでした。晴れて、今回この地に訪れることが出来、とても感激・感謝を致しております。

この寧夏回族自治区とは、中国の西北部に位置しております。標高は1000m～2500mと、チベット自治区のラサ・約3600mには及びませんが、けっこう高く、そしてこの時期ですでに寒さが十分に伝わってきました。

ここで写真を一枚貼付のつもりが、ここ西安のネットでは写真貼付が不可能です！

写真解説： 戦国秦長城の址（固原郊外にある）・・・今回の海外FWの本格テーマ撮影が終了して、街に帰る途中に立ち寄りました。・・・見渡す限り自分以外誰もいない、秋風吹く高原に、遊牧民族の侵入を防ぐべく建設された長城址（高さ2～3mの土塁）・・・初めて中国を統一した始皇帝も、統一前から修築作業など指令を出していたことであろう。・・・この光景に出くわした時は感動であった。もちろん、長く続いたテーマ撮影が無事に、ある程度の収穫をもって終了したことの喜びでもあるが、この地が紀元前から続く遊牧民族と漢族による攻防の最前線であったことに想いをよせると、何か特別な哀愁を感じてしまうのであった。

残念なことに、そんな感動も長続きしません！！

ブローニーカメラ（モノクロフィルム）で撮影しようとしたら、フィルムの巻上げが全く出来ないのです！ 常に空回りして、とうとうこの場で4本を無駄にしまいました。体感気温10度くらい（今回のFWで最低気温）の中で、指がかじかみながら巻いたから、失敗したなんてことは関係ないと思いますが、とにかく以前から少し調子も悪い時があったので、今回のテーマ撮影が終了したと同時に燃え尽きたんだなと思うしかないのかな！

あとで何度もチェックしたけど、とうとう復活しませんでした！（+\_+）

現在、私は西安に来ております。明日もう北京に戻りますが！ まだまだ話したいこと、お伝えしたいこと沢山あります（固原～西安のバス移動がとても大変だった！ことなど）が、本日はこれにて店じまいとさせていただきます。次回はあさって、もしくは、しあさってだと思います。では！では！

カテゴリ：

post by 荒金 聡 | 日時: 2006.09.05 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)